



陸上日本選手権に向けて調整する灰玉平(八戸学院大)＝30日、八戸市東運動公園陸上競技場

# 「10秒2台で決勝へ」

## あすから陸上日本選手権

### 男子100メートルに灰玉平(八学大)

陸上の世界選手権(8月・ブタペスト)などの代表選考会を兼ねた日本選手権が6月1〜4日、大阪市のヤンマースタジアム長居で開催される。花形種目の男子100メートルには県勢で唯一、八戸学院大3年の灰玉平(はいたまたいら) 侑吾(20)が2年連続で出場する。昨季、10秒30をマークし22年ぶりに同種目の県記録を塗り替えた成長株は、「10秒2台の自己ベストを出して決勝に行きたい」と準決勝敗退に終わった昨年の雪辱を期す。

(千葉真由美)

灰玉平は岩手県洋野町大野中から一線級がエントリ。激戦から同県の花巻東高に進学後、陸上競技を始めた。187センチの長身を生かしたダイナミックなフォームで後半に伸びる走りを持ち味で、昨年5月の県春季選手権で自己ベストを一気に0秒35更新し、10秒39をマーク。翌月に行われた日本選手権(大阪・長居)で10秒33、岩手県選手権(盛岡市)で10秒30と好記録を連発し「この時期は絶好調だった」と振り返る。それまでの同種目の県記録は2000年に樹立された10秒31。

今回の日本選手権男子100メートルには、昨年のオレゴン世界選手権7位のサニブラウン・ハキーム(タンブルウイードTC)をはじめ、小池祐貴(住友電工)ら一線級がエントリ。激戦が予想される中、灰玉平は「あまり周りを意識しないタイプ。自分の走りをしたい」と淡々と語っている。今季は10秒4台をコンスタントに出し好調を維持しており、「いいタイムが出ると思う」と自信を見せた。

同種目は3日に予選、4日に準決勝と決勝を行う。このほか県勢は男子5000メートルに小袖英人(八学光星高・明大出、ホンダ)、同4000メートル障害に岸本鷹幸(大湊高・法大出、富士通)、女子砲丸投げと円盤投げに菊池聖奈(田名部高出、日大)、同砲丸投げに田中杏実(青森北高出、九州共立大)、同ハンマー投げに村上来花(弘前実業、同)がエントリした。